

市大病院で専門相談開始

不育症対策が前進へ

神奈川県議会議員
民主党・かながわクラブ きしべ 都

子どもを授かりにくい「不妊症」は近年の認知度の高まりとともに治療を受ける人も増え、多くの自治体で相談窓口や治療費助成制度を設けています。一方、授かっても2回以上の流産・死産、早期新生児死亡を繰り返す「不育症」はあまり知られていません。全国は、代表質問で取り上げ、大きいものがあります。

みなさまからのご意見、
ご要望をお待ちしています

きしべ都政務調査事務所

南区通町2-25-3 千々輪ビル1階

☎045-341-3385

<http://kishibe-miyako.com/>

プロジェクトチームが研究を進める中、県に早期対策を求めてきました。

「早く知り、治療を受けたいれば」という声によろしく自治体の対応が始まりました。市では昨年度から各区の福祉保健センターで不育症相談を受け付け、4月からは浦舟の市大病院内で不育症専門相談を月1回実施することになりました。県も実態調査を昨年11月に実施しました。今後の相談体制の整備や、妊娠婦への周知、情報提供と合わせて保険適用されず、高額になる治療の補助金導入など、経済的支援も必要です。

安心して産み育てられる神奈川に向け、引き続き取り組んでいきます。

神奈川に向かって、引き続き取り組んでいきます。

